

【東かがわ市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本市では、授業改善やICTの活用を通して、対話的で主体的な深い学びを実現し、学び方を学ばせることで、主体的な学びを支える力を育み、児童生徒が東かがわ市で学ぶ楽しさを味わい、主体的に未来社会を生きる人づくりの実現を目指している。

2. GIGA第1期の総括

コロナ禍における学びの保障をきっかけに、1人1台端末をはじめとした急ピッチで学校ICT環境の整備を完了させたところであるが、校内ネットワーク環境や教員の情報活用スキル等に課題があることが分かった。

令和4年度より全小中学校で「授業支援ソフト」と「A Iドリル」を導入し、授業改善や児童生徒の自主学習ができる環境を整備したが、教員の情報活用スキルの違いや校内ネットワーク環境が脆弱で多人数の同時接続ができないことで活用が難しいなど、学校間や教員間による活用の格差が見られた。

GIGA第2期に向けて、校内ネットワーク環境の改善に必要な整備を行い、通信環境は改善している。今後は、情報活用スキルの向上やICT機器を活用した指導について教員研修を積極的に開催し、学校間や教員間の格差を縮小させることで、児童生徒の学びの質のさらなる向上に努める。

3. 1人1台端末の利活用方策

【1人1台端末の積極的活用】

授業等での端末等のICT機器を、教員が「教えるための道具」として活用することに加え、児童生徒が「学ぶための道具」としても積極的に活用していくことで、児童生徒の資質・能力の育成に資することができる考える。

そのためには、1人1台端末を、教員の指示により活用するだけでなく、児童生徒の発達段階等に応じて、活用の仕方を子どもに委ね、端末をいつ、どのように使うかは児童生徒自身が決められるようにすることが重要であり、そのような授業等への転換を目指す。

【個別最適・協働的な学びの充実】

「授業支援ソフト」と「A Iドリル」の積極的に活用し、従来の授業を見直し、個別最適な学びと協働的な学びを実現することによって、児童生徒の資質・能力の育成を目指す。

特に、令和6年度から複数年かけて、全ての市立学校の教室に電子黒板と書画カメラの整備を進めており、児童生徒が発表する場面等で授業支援アプリの機能を用いて、児童生徒の意見をグループや全体に共有することにより、個別最適で協働的な深い学びの実現も期待できる。

【学びの保障】

ICTの持つ特性を最大限活用して、様々な理由により登校が難しい児童生徒や、障害等により特別な配慮や支援が必要な児童生徒に対するきめ細かな対応を行い、「全ての子どもたちの可能性を引き出す」ことを目指す。